

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第18週 (4/29-5/5) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		18週	17週	16週	15週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	17	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	26	27	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	4/29-5/5	4/22-4/28	4/15-4/21	4/8-4/14	4/22-4/28
			18週	17週	16週	15週	17週
小児科	RSウイルス感染症		0	1	4	4	40
	咽頭結膜熱	↓	1	4	8	1	37
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		15	58	45	55	466
	感染性胃腸炎		19	99	114	97	766
	水痘		2	4	9	8	48
	手足口病		0	0	1	1	8
	伝染性紅斑		0	17	19	22	159
	突発性発しん		1	12	18	12	59
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	3
	流行性耳下腺炎		0	1	0	0	19
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		4	70	93	34	377
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	1	2	1	14
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	2	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	80歳代	病原体の分離・同定
結核	女性	70歳代	病原体の分離・同定	百日咳	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	IGRA検査等	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	女性	80歳代	病原体抗原の検出	-	-	-	-

*第18週は、結核3件(61)、レジオネラ症1件(4)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(6)、百日咳1件(35)、風しん1件(23)の報告があった。

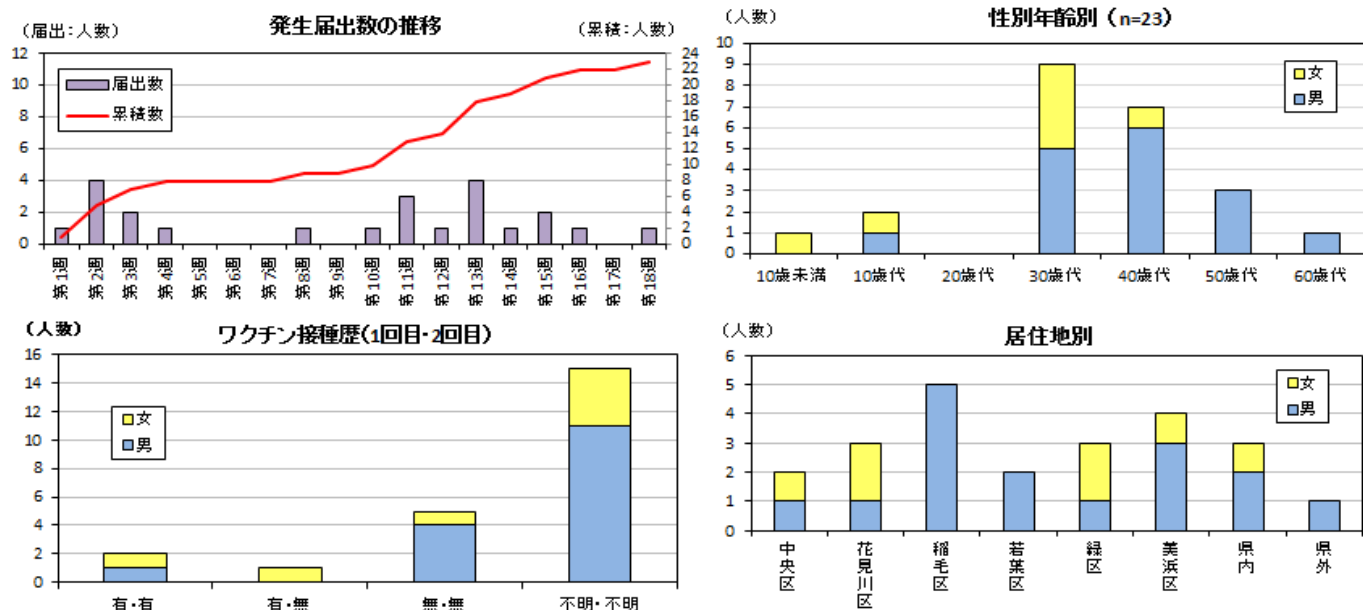
※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第18週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より減少し0.06となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。例年の発生動向では、今後増加する傾向。

■ トピック ■
 <風しん>

全国レベルの第17週の発生届累積数は1377件で、昨年の同時期の100倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県順で多く報告されており、関東地方で多くなっています。千葉県では第18週に1件の発生届があり、2019年の累積数は23件となりました。性別では男性が69.6%（16名）、女性が30.4%（7名）となっており、年齢階級別では30歳代（39.1%：9名）、40歳代（30.4%：7名）、50歳代（13.0%：3名）の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。居住地別では稲毛区（21.7%：5名）が最も多く、ワクチン接種歴が無し又は不明が9割近くを占めています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第17週の定点当たりの報告数は0.48で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、福井県、鹿児島県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.28で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第18週は前週より減少し0.06となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。2019年は、年頭から上下しながら増加する傾向となっています。例年の発生動向によると、今後増加する傾向にあります。区別の発生状況は、若葉区（0.5/定点）のみから発生報告があり、同区の4歳で発生報告がありました。2019年第1週から第18週までの累積報告数は44件で、性別では男性が65.9%（29名）、女性が34.1%（15名）となっており、年齢階級別では5歳（20.5%：9名）、3歳（13.6%：6名）、4歳及び6歳（共に11.4%：5名）の順で多くなっています。

